

特別企画：自動車小売業の倒産動向調査

中古自動車小売の倒産、5年ぶり前年度比増加

～ 新車小売の倒産は2年連続の前年度比減少 ～

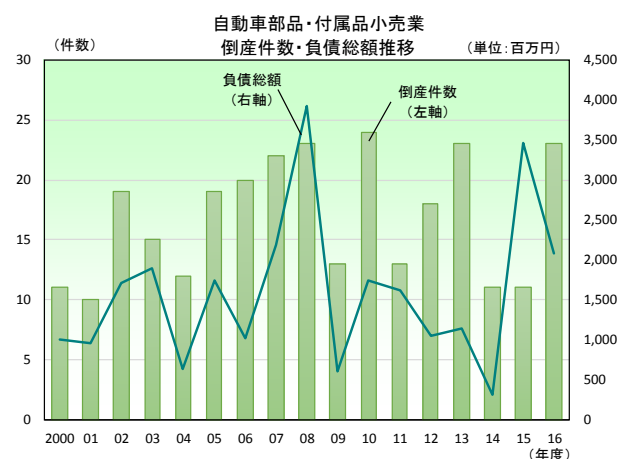
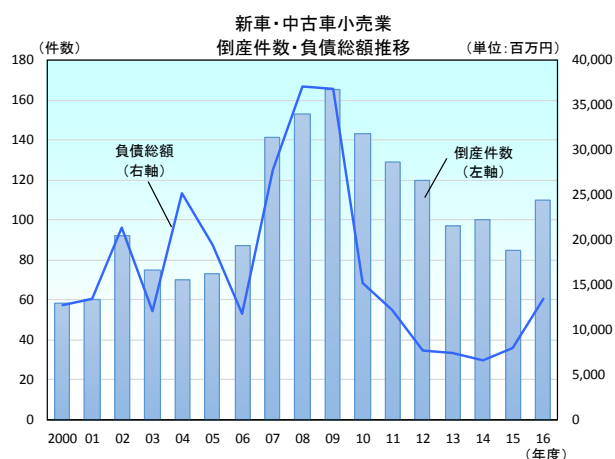
はじめに

2016年度は自動車業界において多くのニュースが飛び交った1年となった。三菱自動車工業とスズキの相次ぐ燃費不正問題により一部車種が販売停止を余儀なくされたほか、タカタによるエアバッグ問題が発覚し、大量リコールも発生した。このほかにも、米フォードが日本の自動車市場縮小などを理由に日本事業から撤退するなど、国内の自動車販売市場が変化した1年でもあった。こうした市場変化の影響は、消費者と直接向き合う小売業各社も同様に受けやすく、経営環境の変化に耐えられなくなった自動車関連小売業の倒産が懸念される。

帝国データバンクでは、2000～2016年度（17年間）の「自動車小売業」の倒産動向（法的整理を対象）について分析した。

調査結果（要旨）

1. 自動車小売業（新車・中古車）の2016年度（2016年4月～2017年3月）の倒産は110件（前年度比29.4%）となり、2年ぶりに前年度を上回った。負債総額は133億8200万円（同68.1%増）となり、2年連続で前年度比増加となった。業態別にみると、中古自動車小売業の倒産は97件（同40.6%増）となり、5年ぶりに前年度を上回った
2. 自動車部品・付属品小売業の2016年度の倒産は23件（前年度比109.1%増）となり、3年ぶりの前年度比増加。負債総額は20億8700万円（同39.6%減）で、2年ぶりの前年度比減少



1. 自動車小売業の倒産動向 — 「中古自動車小売」の倒産、5年ぶり前年度比増加

2016年度の自動車小売業（新車・中古車）の倒産（法的整理）は110件（前年度比29.4%）となり、2年ぶりに前年度を上回った。負債総額は133億8200万円（同68.1%増）となり、2年連続で前年度比増加となった。

業態別にみると、2016年度の新車小売業の倒産は13件（同18.8%減）となり、2年連続で前年度を下回ったほか、2000年以降の17年間で最少を更新した。一方、中古自動車小売業の倒産は97件（同40.6%増）となり、5年ぶりに前年度を上回った。負債総額は約71億4400万円（同20.1%増）となり、3年連続で前年度比増加となった。

中古自動車業界は、2011年に発生した東日本大震災による被災地需要や、従前より海外での中古車輸出などが好調だったこともあり、倒産件数は減少傾向となっていた。しかし、海外では資源価格下落などの影響による輸出先の景気と需要が低迷。国内でも2015年に軽自動車税が引き上げられたほか、燃費不正問題にともなう軽自動車の一部車種で販売停止措置が取られたことで登録台数が減少。加えて、過年度の新车市場の低迷で中古車買取台数が減少傾向にあったことや、輸出の増加などで中古車の供給量が減少し「商品車両不足」の状態となっている。そうしたなかで、在庫確保などを目的に利幅の薄い買取競争が加熱するなど、業者間での競争が激化し収益を圧迫しつつあることが、中古自動車小売業の倒産が増加している背景と考えられる。

年度	自動車小売業 合計				自動車(新車)小売業				中古自動車小売業			
	件数	前年度比 (%)	負債総額 (百万円)	前年度比 (%)	件数	前年度比 (%)	負債総額 (百万円)	前年度比 (%)	件数	前年度比 (%)	負債総額 (百万円)	前年度比 (%)
2000	58	-	12,728	-	19	-	7,428	-	39	-	5,300	-
2001	60	3.4	13,406	5.3	24	26.3	5,655	▲23.9	36	▲7.7	7,751	46.2
2002	92	53.3	21,357	59.3	26	8.3	14,739	160.6	66	83.3	6,618	▲14.6
2003	75	▲18.5	12,033	▲43.7	19	▲26.9	5,396	▲63.4	56	▲15.2	6,637	0.3
2004	70	▲6.7	25,166	109.1	16	▲15.8	19,253	256.8	54	▲3.6	5,913	▲10.9
2005	73	4.3	19,450	▲22.7	19	18.8	14,620	▲24.1	54	0.0	4,830	▲18.3
2006	87	19.2	11,728	▲39.7	26	36.8	7,421	▲49.2	61	13.0	4,307	▲10.8
2007	141	62.1	27,802	137.1	41	57.7	19,757	166.2	100	63.9	8,045	86.8
2008	153	8.5	37,044	33.2	38	▲7.3	29,643	50.0	115	15.0	7,401	▲8.0
2009	165	7.8	36,730	▲0.8	42	10.5	11,693	▲60.6	123	7.0	25,037	238.3
2010	143	▲13.3	15,142	▲58.8	38	▲9.5	5,332	▲54.4	105	▲14.6	9,810	▲60.8
2011	129	▲9.8	12,174	▲19.6	22	▲42.1	6,392	19.9	107	1.9	5,782	▲41.1
2012	120	▲7.0	7,684	▲36.9	27	22.7	3,098	▲51.5	93	▲13.1	4,586	▲20.7
2013	97	▲19.2	7,378	▲4.0	24	▲11.1	3,242	4.6	73	▲21.5	4,136	▲9.8
2014	100	3.1	6,652	▲9.8	27	12.5	2,004	▲38.2	73	0.0	4,648	12.4
2015	85	▲15.0	7,960	19.7	16	▲40.7	2,011	0.3	69	▲5.5	5,949	28.0
2016	110	29.4	13,382	68.1	13	▲18.8	6,238	210.2	97	40.6	7,144	20.1

2. 自動車部品・付属品小売業の倒産動向 — 3年ぶりの前年度比増加

タイヤやホイールなどの販売などを行う自動車部品・付属品小売業の2016年度の倒産は23件（前年度比109.1%増）となり、3年ぶりの増加となった。負債総額は20億8700万円（同39.6%減）となり、2年ぶりの減少となっている。

自動車部品は自動車販売の低迷にともない、若者を中心としたカスタマイズパーツ需要も減少するなか、近時ではメーカー純正パーツの人気の高いほか、同業他社やホームセンターなど異業種との競合による価格競争がし烈となっている。加えて、タイヤなどのカーケア用品についてはインターネットを通じた販売も普及しており、こうした市場環境の変化も一因となって収益が悪化し、倒産に至るケースが散見された。

年度	自動車部品・付属品小売業			
	件数	前年度比 (%)	負債総額 (百万円)	前年度比 (%)
2000	11	-	1,000	-
2001	10	▲9	952	26.3
2002	19	90	1,713	8.3
2003	15	▲21	1,893	▲26.9
2004	12	▲20	642	▲15.8
2005	19	58	1,744	18.8
2006	20	5	1,025	36.8
2007	22	10.0	2,184	113.1
2008	23	4.5	3,916	79.3
2009	13	▲43.5	609	▲84.4
2010	24	84.6	1,748	187.0
2011	13	▲45.8	1,613	▲7.7
2012	18	38.5	1,056	▲34.5
2013	23	27.8	1,142	8.1
2014	11	▲52.2	310	▲72.9
2015	11	0.0	3,456	1,014.8
2016	23	109.1	2,087	▲39.6

3. まとめ

調査の結果、自動車小売業の倒産件数は2年ぶりに前年度を上回り、負債総額は2年連続の増加となった。新車小売業は2年連続で倒産件数が減少したものの、中古自動車は大幅増加となったほか、カーケア用品を販売する自動車部品・付属品小売業も2年ぶりに前年度を上回った。特に、中古自動車小売業は他の自動車販売業界に比べ国内外に多様なリスクを抱えており、同業界が自動車小売業全体の倒産件数を押し上げるケースも多い。

近時では、自動車販売台数は新車市場を中心として回復傾向にあるものの、少子高齢化と人口減少が進む国内では、自動車需要は厳しい状況が続くことが見込まれる。また、中古自動車小売においても同様に、国内新車市場縮小による商品減少や輸出先の景気動向によって業績を大きく左右されるなどのリスクを避けることが難しくなりつつある。国内企業倒産が減少傾向で推移しているなか、こうしたリスクを内包する同業界の倒産動向について注視する必要がある。

【参考】主な倒産事例**自動車（新車）小売業**

- ・**フォード広島**（負債約 8 億円、広島県）は、米大手自動車メーカー・フォードの新車・中古車の販売を主体に手がけ、2000 年 10 月期には年売上高約 11 億 3500 万円を計上していた。しかし、近年は同業他社との競合などで受注環境が悪化。そうしたなか、2016 年 1 月に「フォード・ジャパン」が国内事業の終了計画を発表し、2017 年 2 月 3 日に特別清算開始決定を受けた。

中古自動車小売業

- ・**ハイウェー**（負債 11 億 6000 万円、愛知県）は、高級ワンボックス車などのミニバンや、軽自動車などを取り扱う中古車販売を手がけ、2015 年 6 月期には年売上高約 25 億 300 万円を計上していた。しかし、自動車販売全体が低迷するなか、高品質な中古車の仕入価格が高騰。借入金への依存度も高く資金繰りがひっ迫するなか、店舗閉鎖などの合理化で立て直しを図ったものの奏効せず、事業継続を断念。2017 年 3 月 24 日に破産手続き開始決定を受けた。

自動車部品・付属品小売業

- ・**レベルファイブ**（負債 3 億 2000 万円、千葉県）は、タイヤ、アルミホイールなど自動車用品、部品の販売を手がけ 2011 年 3 月期には年売上高約 15 億円を計上していた。しかし、その後はカスタマイズパーツの需要減少に加え、ネットを通じた販売形態への移行にともない業況が落ち込み、2014 年 3 月期の年売上高は約 8 億円にダウン。この間、再生スキームを策定しつつ収益の改善を図っていたが、業績の悪化に歯止めがかからず事業継続を断念。2016 年 11 月 16 日に破産手続き開始決定を受けた。

【 内容に関する問い合わせ先 】

（株）帝国データバンク 産業調査部 情報企画課

担当：飯島 大介

TEL 03-5775-3073 FAX 03-5775-3169

E-mail daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。